新たな国立公文書館及び憲政記念館に係る基本設計について

<内閣府 令和2年3月>

建物概要

場所:国会前庭(憲政記念館敷地)

建物:地上3階地下4階

総建物面積:約42,460㎡ <内訳は右のとおり>

(憲政記念館・駐車場を含む面積)

工事費:約488.9億円(什器等諸費用除く)

今後の進め方(予定)

~令和3(2021)年3月 令和3(2021)年度~

建設工事

実施設計

令和8(2026)年度

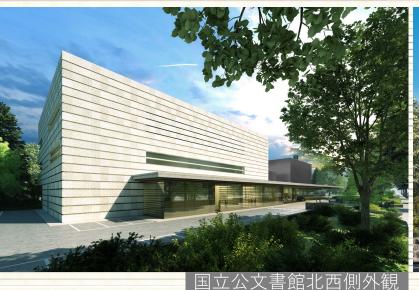
施設完成 開館

機能名	国立公文書館		憲政記念館
展示·学習	約2,360㎡	(420m²)	約1,280㎡
調査研究支援	約1,200㎡	(340m³)	約380㎡
講堂·会議室			約1,040㎡
保存 <一般書庫書架延長>	約9,750㎡ <約100km	(14,940㎡) (72km) >	約800㎡
修復	約420㎡	(140㎡)	
デジタルアーカイブ	約380㎡	(-)	
交流(エントランス等)	約1,000㎡		約550㎡
執務·管理	約6,770㎡		約780㎡
その他(廊下等)		約9,110㎡	
駐車場	約6,640㎡		
合 計	約42,460㎡		

※()内は北の丸の現状。ただし、保存はつくばも含む。機能毎の面積は現時点での想定で、 実施設計段階で変更となる可能性がある。



- 外観
- 国立公文書館のデザインは、その中枢機能である**歴史公文書等の保存を表現**するため、**時を貫く記録 の「積み重ね」のイメージを水平ラインで強調**するとともに、所蔵資料を**守り保存する使命を重厚感と陰影 ある**意匠で表現する。
- また、国の三権が集中し、国民が利用しやすい国会前庭への立地であることを踏まえ、隣接する国会 議事堂との調和を図るため、国立公文書館には同系色の石材(国会議事堂:桜御影)を使用する。
- 憲政記念館のデザインは、**両館の独自性を表現**するため、現建物の特徴を継承し、**近代建築材料** (金属、ガラス等)を基調とする。





※<u>当デザインには、</u>国内で最も権威ある建築の賞とされる「日本建築学会賞(作品)」受賞者である大谷弘明氏、山梨知彦氏(いずれも(株)日建設計 設計部門プリンシパル)がレビュアーとして参画。